

2大モデルによるマルチトリレンマ艦戒研究

A Study of Global Model Architecture Information System

遊工学研究所*1
Yuukougaku Institute

沢 恒雄*2
Sawa Tsuneo.

マルチトリレンマの弊害で人類の存亡が問われている。これまで艦戒(いましめ)策として「工業化率」と「人口増加率」の提言をしてきた。その精神は、「生物・人類温存モデル」と「文化・言語温存モデル」に基づいている。具体的には、日本の良質文化の知財化と、GMAIS (Global Model Architecture Information System) により世界システムモデルを創る。安寧な社会実現のため日本がCOEとなるためのデジタル・ディプロマシーを実践する。

1. 背景

20世紀は、戦争の世紀であった。21世紀は、人類滅亡の世紀になる可能性が高い。グローバル社会において「ダブルスタンダード」と「中世の強欲な資源・言語・文化帝国主義」の2大国の覇権主義的施策では、破局へ加速する傾向であろう。「70年間の無戦争、核兵器・銃火器・麻薬・強欲望を抑止してきた先人と現代日本人の良質な社会倫理観を世界システムの核にすべき時期にきている。」

三つの要件を同時に満たす解がないシステムをトリレンマと定義する。すなわち、二つの要素を満たすと、残る1つの要件を満たすことが出来ない現象である。世界システム論的に、環境・社会・経済では人類にとり最大のトリレンマが存在し、大トリレンマと定義する。さらに、これらに従属した政治トリレンマ、経済トリレンマ、金融トリレンマが存在する。

工業社会・知識社会の21世紀では、この大トリレンマの症状は肥大化し、「種」としての存亡にかかわる状態にある。糸川英夫博士は、22世紀に100億の人類を賄う地球資源が極端に不足し、人類は滅亡すると予測した。

「種」の寿命が尽きる原因は、予測不能だが、「気象の大変動」「暴発的核戦争」「ウイルス・細菌に対処不能な事態」「悪性化学物質の蔓延」等は、あり得ることだ。

2. 目的

人類が22世紀を安寧に迎えるために、人類滅亡の危機となる状況を回避せうる施策を世界システムとして非覇権主義的に定着させる提唱をしてきた。

3. 意義

「個⇄人間・生物」「種⇄国・人種・文化・言語」の連鎖が破断され、一挙に「個」と「種」が消滅する確率を低減させる知的な戦略・戦術・戦闘を、文化・経済大国として唯一の候補国である日本が実践すべきである。

20世紀を通じて2度もゼロベースに陥っても蘇生して文化・経済・倫理大国を保持している国としての責務であり、義務でもある。具体的には、良質な先人と現世の日本の文化を核にした知財資源と知的資産を提供し、COEとしてその役割を果たすべきである。信頼される大国になるためにオリンピックまでにやるべきである。

「多神仏な宗教」「足るを知る文化」「精緻な匠社会や」「万世一系の心柱保有国」などは、肥大した巨大な欲望

を平準化すると政策になりうると確信する。

ちなみに、ジョージソロスやイスラム国の信条は、同根であり、世界は自分のためにある徒で礼節は見当たらない。

4. 計画

①「生物・人類温存モデル」

工業化は、必ず環境破壊を伴う。工業化のプロジェクトは、アセスメント・マネジメント・リハビリテーションのサイクルを経て復元されているが、この間で生物の植物連鎖の破壊や復元時間などはあまり議論されていない。必然的に環境は、悪化する。現実の保持は、工業化率の低減となる。

②「文化・言語温存モデル」

約6000種あるといわれている言語は、言語帝国主義的な施策により半減期は近いと予測されている。人口増加率の抑制で現状維持を保持することが、2つ目のマルチトリレンマ艦戒(いましめ)⇄緩解である。

艦戒策とし、具体的方法を次に示す。

①GMPIA: 思考支援・集団意思決定支援・合意形成支援に加えて、知識獲得支援システムの概念の強化をはかりプロタイプシステムを開発し、遊工学研究所のHPで公開する。

②専門日本語システムにおける経営領域の経営日本語教育システムを2013年に開発した。専門日本語教育システムの例として日本語・日本文化教育システムのモデルを構築する。

③①の概念で②の発展系として包括的介護支援システムの概念モデルを構築する。

当研究では、情報システムのモデルベースを構築する、基盤整備の情報システム概念である下記の3つを前提とする。

①GMAIS【Global Model Architecture Information System】は、モデルベースを構築するためのシステム概念で、思考支援、集団意思決定支援や合意形成支援の主機能である。

②PIACS(Practical Intelligence Acquisition & Control System)は、知識獲得機能の概念である。

③GMPIA(GMAIS with PIACS)とは、PIACSを内包したGMAISシステム概念である。

5. 期限内での実現計画

①上記の①から③まで遊工学研究所のHPに公開し、学会発表をする。

②2大モデルの側面での世界システムの概念を総括する。その前提は、国際日本学、国際開発論、国際経済学、哲学的な側面等が存在する。それらとの対応関係を研究する。

添付資料 第1図表から第3図表

参考文献 第2図表の下部に示した。

*1・*2 連絡先: 沢恒雄, 遊工学研究所, 川崎市麻生区百合丘
1-17-6-502, 090-3457-2687, yre00736@nifty.ne.jp

第1図表 2 大モデルによるマルチ・トレインマ艦戒研究 構想と概念
日本・日本文化・日本語教育による知財戦略,世界システムの国際日本学的側面からモデル化

<p>A. 人類の永遠的な課題</p>	<p>環境・社会・経済のマルチトレインマ艦戒戦略 21世紀には,人類は不在([人類生存の法則:糸川英夫(1995)])⇒ 【人口をxとすると,2000年時点で $dx/dt=\infty$ 非線形問題で解なし=滅亡を意味する】 【∞の低減化法⇒人口増加率・経済成長率の低減化:沢恒雄(2007)】 グローバリズムとナショナリズムの相克:中世に逆戻りの現実を露呈</p>	<p>先行研究,研究項目</p>
<p>B. 課題を緩解する必須の2大モデルとIT基盤</p>	<p>M① 「生物・人類温存モデル」, M② 「文化・言語温存モデル」 ⇒「工業化率」と「人口増加率」の低減による艦戒をし,課題の緩解により安寧空間を得る B① GMAIS:(Global Model Architecture Information System) B② PIACS:(Practical Intelligence Acquisition & Control System) B③ GMAPIA:(GMA Concept with PIACS Function)</p>	<p>1993年提唱済み</p>
<p>C. 2大モデルの理論的背景</p>	<p>① グローバリゼーション(非線形化)対応の政策・外交 (戦争,宗教と経済の形態が変容して民主主義と自由主義経済が爛熟した混沌期) ② 世界的なCOEの実現と2大モデル実現・発信による課題の低減化 ③ COE連動のPublic Diplomacyで日本の先人の遺産である良質な知財を発信 ④ 経営日本語教育システム(GMAPIA)の知的資源資材管理法, 世界システム(国際日本・国際開発・国際経済)や2大モデルの側面から研究 【2領域の基本概念をモデル化+政策化+COE(Center of Excellens)化】</p>	<p>①②③: 研究中 ①④: 研究テーマ</p>
<p>D. 緩解策の方法論</p>	<p>① 日本・日本文化・日本語による知財戦略構想をまとめ,それを世界へ発信 ② GMAIS+PIACSの統合化システム ③ 統合化辞書体系:知財戦略の基盤;シナリオ,モデル,ケース,ナリッジとデータなどの情報バンクが知財戦略の基盤 ④ 実践知獲得&知財管理システム=GMAPIA(経営日本語教育システム)提唱済</p>	<p>①: 研究テーマ ②③④: 提唱済</p>
<p>E. 具体的な実践法と概念を総括</p>	<p>①成熟化した社会・経済・文化の先進大国の責務 ②日本の情報発信【日本・日本文化・日本語】で異文化理解と容認から安寧空間 ③先人と現在の日本の知的資源・資産の知財化・政策化⇒ICTによるCOE機能で啓蒙身の丈:匠(もの創り)+武士道+穏健な欲望・価値観・民意+足るを知る適正な義務教育</p>	<p>①②③: 研究の中で見直</p>
<p>研究テーマ設定上の考慮点</p>		
<p>X. 研究範囲の広大性を考慮</p>	<p>*工学(安全)・MBA(思考・GDSS・合意形成支援)・環境経営(地球環境マネジメント)・日本語教育(専門日本語教育システムGMAPIA)の研究結果の統合化研究 *日本の良質な伝統・文化・文明・政策・施策など知的資源・資産による2大モデルの概念化再検討 国際日本・国際経済・開発モデルと経営日本語教育システムの拡充とGMAISにワーキングメモリー機能を導入して思考力支援機能の拡張 *20世紀の事実に基づく歴史解釈を発信,満州帝国の存在の事実を直視して再解釈と定着が必要</p>	
<p>Y. 複雑性と多様・多重性への対応</p>	<p>*日本の特質は異文化の折衷力・統合化力で,その特質の利活用が可能な統合化辞書体系整備 *複雑性問題の研究法の相互補完(質的+量的)効果による実践知獲得法の概念(PIACS)を強化</p>	
<p>Z. 「種と個」存続の原理・原則を再認識</p>	<p>*国・組織・個人,文化・文明の共有概念 *核廃絶,銃火器廃絶,飢餓,麻薬の唯一の根絶実現の国であること提言・政策の資格国⇒ 20世紀型覇権国家に先行した積極的な2大課題の対策と諸悪根絶の政策推進の啓蒙と実践活動匠と精緻のモノ創り国家:リサイクル・感覚・知覚・認知ロボット立国をベースにした知財戦略・国家戦略</p>	

<p align="center">第2図表 研究計画書</p> <p align="center">日本・日本文化・日本語による知財戦略、世界システムの国際日本的側面からモデル化</p>			
領域	I. 知財戦略の基盤整備	II. 日本・日本文化・日本語の知財モデル	III. 2大モデル的側面の世界システム
時期	<p>知財戦略の基盤となる知的財産と収集・編集・管理・発信</p> <p>①デジタル・タイプロマン COE化方法論研究</p> <p>②ワーキングメモリー概念をGMAIS概念に適用して思考力増強法を研究</p>	<p>専門日本語教育 経営日本語教育システム</p> <p>①経営日本語教育システム拡張 教材・コース開発と実践・評価</p> <p>②経験知獲得機能の拡充 伝承のメンタリング, ファシリテーションなどの活用</p>	<p>国際日本, 国際経済, 開発経済・モデルの概念 世界システムの規範たる参照モデル</p> <p>①日本・日本文化・日本語 ②トリック緩解の方略 ③①のモデル化による知財のCOE化</p>
先行研究	<p>思考・GDSS・合意形成支援システムのGMAIS(Global Model Architecture Information System), 特許申請, 修士論文, 学会発表, 著書</p>	<p>実践知獲得システム;PIACS(Practical Intelligence Acquisition & Control System), 修士論文と学会発表</p>	<p>参考文献から学問的な概要, 構造や課題を把握した</p>
初期 1年目	<p>GMAISの思考支援環境にワーキングメモリー, ファシリテーターやオートポエシスの概念・機能・手法を組み込む実用化を研究</p>	<p>GMAPIAの見直し モデル対象の領域検討 モデル化に向けて辞書開発や教材の記述法を確立する http://www.yuukougaku.jpに公開</p>	<p>領域の概念的整理 シリオ・モデル対象の確定 国際日本研究とデジタル・タイプロマンの適用方法研究</p>
核心期 2, 3年目	<p>代表的なサンプルで機能の確認をする 暗黙知の形式知化, 即ち実践知の獲得を確認する知財と足りうるかの評価をする</p>	<p>教授法を検討して実践し, その結果を評価する モデルとしてモデルベースに組み込み, 使用と運用の拡大を謀る</p>	<p>範囲選択の妥当性の確認をして, モデル対象から外れた領域の今後の扱いや課題を見極める</p>
総括期 4, 5年目	<p>世界システム論として全体的な整合性を確認してデジタル・タイプロマンとして展開する。 AI技法や理論を随所で利活用して研究する。 新規制, 独創性, 実現性, 経済性の視点から最終評価をする</p>		
参考文献	<p>沢恒雄(1992,)思考支援システムに関する研究, 青山学院大学大学院・修士論文及びMBA/環境経営/日本語教育に関わる修士論文</p> <p>沢恒雄(1997)知識時代の経営情報システム論, 白桃書房</p> <p>沢恒雄(1997)知識時代経営情報管理論, 白桃書房</p> <p>沢恒雄(1989~)GMAISに関する著作・論文など</p> <p>日本IBM(ソフトウェア商品のGMB)及び日本IBMのBSP手法など</p> <p>山口裕之(2009)認知哲学, 新潮社</p>	<p>沢恒雄(2013)規範モデルとしての経営日本語教育コースの開発と実践, 桜美林大学大学院・修士論文</p> <p>岡谷英夫(2015), 小学校国語教科書に見るオノマトペと日本語教育, 人工知能学会(新学習指導要領に基づく全出版社の小学校国語教科書の調査結果を参照)</p>	<p>猪木武則・小松和彦・白幡洋一郎・瀧井一博 (2012)新・日本学誕生, 角川学芸出版</p> <p>池内了(2014)科学のこれまで・科学のこれから, 岩波書店</p> <p>シエトロ・アジア経済研究所</p> <p>朽木昭文等(2004)テキストブック開発経済学, 有斐閣</p> <p>渡辺利夫(2001)国際開発学入門, 光文社</p> <p>平川均(1998)NISE 世界システムと開発, 同文館</p>

第3図表 日本・日本文化・日本語と国際日本学の領域との関連

区分		研究域	専 門		人文学			人文科学			社会科学			自然科学			
			細 目		哲 学	史 学	文 学	心 理 学	文 化 人 類 学	地 理 学	社 会 学	経 済 学	政 治 学	人 類 学	科 学 技 術 史	情 報 学	
一単位としての日本文化	時系列的な研究	1 能動研究	現代	明治以降の現代文化のダイミズム							○	○	○				
			伝統	歴史時代の長短期の文化変動								○	○	○			
			基層	歴史時代以前の変動													
	超時系列的な研究	2 構造研究	自然	環境,人								○	○	○		○	○
			人間	心理,行動								○	○	○			○
			社会	政治,経済,技術								○	○	○			○
世界の中の日本文化	3 文化比較研究	生活	衣食住								○	○	○			○	
		制度	組織,国家,体制								○	○	○			○	
		思想	宗教,芸術								○	○	○			○	
	4 文化関係研究	旧交圏Ⅰ	古代以降														
		旧交圏Ⅱ	大航海時代以降												○	○	○
		新交圏	近代以降	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
時系列的・超時系列的な研究	5 文化情報研究	外国における日本研究Ⅰ	欧米														
		外国における日本研究Ⅱ	非欧米諸国														
		日本における日本研究	日本	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

経営日本語教育,思考力強化,実践知獲得の項目に着目して,上記の分布を示した。

「新・日本学誕生;国際日本文化センターの25年」2012,猪木武徳,門川学芸出版(P.144とP.147)を参考に編集・総括した。